

高知憲法速報

200 2009.6.5

発行:高知憲法会議事務局 088 - 872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

「9条しあわせの扉」出版記念行事 5月30日

「こうち九条の会」と「女性『九条の会』高知」が協力して高知新聞企業が発行した、ブックレット「9条しあわせの扉」の出版を記念する講演会と祝賀会が、5月30日高知市で開かれました。

高知女子大学で開かれた講演会では、元広島市長の平岡敬さんと挿絵画家の野村まり子さんが講演、100名が参加しました。こうち九条の会代表の渡邊進さんは「人類の歴史の中で一貫して求めてきたものは平和であり平和こそが生活を豊かにしてきた。出版したブックレットは好評だ。5月3日には憲法を家族で読むことなど、憲法を私達の生活と結びつけることが大切だ」と開会の挨拶。執筆者15人の内9人が出席、出席者を代表して所谷孝夫さんと山根和代さんが挨拶しました。高知市出身の挿絵画家・野村まり子さんは、「子どもが小6の時に、憲法前文を親子で読む宿題が出て、その時から憲法の絵本を作りたいと思ってきた。構想がなかなかまとまらなかったが、アメリカ人の作った『合衆国憲法』という絵本に触発されて昨年9月に出版することができた。本になったものの3倍の絵を描き、静岡大学の笹沼弘志教授の監修をえた。憲法を使って自分の人権を主張できること、子どもたち一人一人が生まれてきて良かったと思える社会が大切だ」と、「えほん・日本国憲法」を作った経験を語りました。(明石書店発行 A4版 48ページ 1680円)

元広島市長の平岡敬さんは中国新聞編集局長や中国放送社長などを歴任し、いまもマスコミ九条の会の呼びかけ人として活動されています。「被爆者の取材の中で『なして早う戦争をやめんかったか』と問われた経験もあり、戦争指導者のみならずマスメディアの責任を考えてきた。ピラ配布への弾圧、組合大会への会場貸与拒否、デモへの攻撃など、いま現実に表れている恐ろしいことをもっと知らさなければならない。戦後64年が経ち、核兵器を持っている国が1国から9国になった、核兵器の性能が向上し小型化して『使いやすい核兵器』になった、放射線の被ばく者が地球

上に増えている、核の闇市場で核兵器の材料や科学者・技術者が流動している、など往時より核兵器の数は減ったとはいえ、核兵器の危険は増大している。オバマの演説の背景にはキッシンジャーらアメリカの元リーダーの動きがある。ゴルバチョフ等グローバルゼロの運動、3月の中央アジア非核地帯条約の発効など新しい状況はあるが、プラハ演説への保守派の反発も強く彼の理想が実現できるか不明だ。オバマはイスラエルについては何も言っておらず、オバマ頼みの空気はまずい。来年のNPT再検討会議が成功するかどうかは重大だ。アフガンやパキスタンでは無人機ブレードを使って爆撃しており、反米の機運が強くなっている。日本は北朝鮮の脅威を言って危機感をあおり、アメリカべったりで情勢が見えてない。IAEAの事務局長立候補落選はその表れだ。北朝鮮と国交を結んでいる国は157国になっている。嫌な人が隣にいても引っ越しできないならうまくやるしかない。9条を変える必要は全くない。エネルギーも食糧も自給できない日本は東アジアの平和を作ることこそ大事だ。政府が国民の命とくらしを守るように要求しなければならない。日米安保体制をなくすこと。私達はどのような社会を作るのか。運動を形骸化させず取り組んでいこう」と訴えました。夕方からは高知城ホールで出版記念祝賀会が行われ、70名が参加して懇談しました。

衆議院本会議で憲法審査会規程強行狙う

自公改憲派は、改憲原案の審査権限を持つ憲法審査会を何としても始動させようと、憲法審査会規程案を11日の衆議院本会議で採決しようとしています。規程案は委員の数や審議のルールを定めるものですが、参議院選挙の与党大敗のあと安部内閣が政権を放棄したこともあって、制定されずに来ています。改憲手続き法の施行まであと1年となる中、改憲派の焦りとともに、総選挙を意識して民主党を憲法問題で揺さぶる狙いもあるものと思われます。民主党の合意を得ることも難しいので与党単独でも強行することをめざしています。6月3日自民党国防部会・防衛政策検討委員会は「敵基地攻撃能力」の保有や軍事費の増額などを盛り込んだ「提言・新防衛計画の大綱について」の最終案をまとめました。6月2日政府は軍事衛星の活用などを盛り込んだ「宇宙基本計画」を決定しました。「海賊対処新法」も参議院で審議中です。憲法改悪の動きが急ピッチで加速してきました。